

歴史の構築学

授業科目名	歴史の構築学	単位数 2 単位
英語標記	Structuring History	
授業コード	360220	
受講人数	30 人	
担当教員	桃木 至朗、内野花	
対象	全研究科大学院生、社会人（5名まで）	
開講時間等	第2学期＝火曜 5 限（10 月 5 日～）	
開講場所	豊中キャンパス：文学部	
キーワード	学界解説、学術評論、歴史、歴史学、歴史教育、アジア史、西洋中心史観、日本特殊論	
授業の目的	[科目サブタイトル] 歴史学を評論／解説する。 [目的] 歴史学や歴史教育を、ひいては日本社会の「知」全体をゆがめてきた西洋崇拜と日本特殊論の克服という問題意識にもとづき、1 学期の「歴史のデザイン」と同様の「異種格闘技戦」を通じて、歴史と歴史学を（外部に開かれた視点で）評論・解説する方法をさぐる。	
講義内容	[授業概要]「日本史を含むアジア史」で関心を集めているテーマを取り上げ、各分野混成グループを主体とした研究発表・討論（人物像やエピソードも軽視しない）をおこなう。 [授業予定] I. オリエンテーションと教科書の要約（2 回）、II. 中華世界の構造と日本の位置（4 回）、III. アジア経済と日本型近代化・工業化（4 回）、IV. 「日本史」から日本列島史へ（4 回）、総合討論・まとめ（1 回）	
教科書	桃木至朗『わかる歴史・面白い歴史・役に立つ歴史——歴史学と歴史教育の再生をめざして』（大阪大学出版会）	
参考書	自分が使った高校の歴史教科書（あれば世界史・日本史両方、また A・B 両方）。その他は授業中に紹介する。	
成績評価	出席・発言などの平常点（60％）と、発表および発表の内容・結果に関するレポートなどの課題（40％）により評価する。	
履修条件・受講条件	高校や大学での歴史履修歴、教職科目の受講歴はいっさい問わない。ただし中学レベルの歴史・地理や現代社会、自然や科学技術などの知識は必須である。	
その他	歴史系の受講生、他分野の受講生の双方が、自己を理解し説明・表現する能力と、他者を理解し論評する能力の両方を要求される授業にしたい。人文学・社会科学系だけでなく、「ものつくり日本」の伝統や日本の環境意識に関心のある理系の院生も、ぜひ参加してほしい。	

阪大史学系が全国の高校教員と協力して実施している「大阪大学歴史教育研究会」

(<http://www.geocities.jp/rekikyo/>)の成果をふまえておこなう授業だが、1 学期「歴史のデザイン」が一般的・理念的な議論に重点を置くのに対し、こちらは個別的・具体的な問題から「歴史」がどう構築されうるかを論じ合うところみである。文学部・文学研究科で開講されている一連の「歴史学方法論」科目受講者や歴史教育研究会の出席者が本科目を履修した場合には、既習事項の定着と視野の拡大に役立つはずである。